様式1－3（統一栽培暦様式）

令和5年産　もっと安心農産物「もっと安心米(コシヒカリ)」栽培暦　～みんなで守ろう生産基準！～

JA成田市・もっと安心米生産班

月	9	10	11	12	1	2	3	4			5			6			7			8			9		
旬								上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生育ステージ							播種期			田植え	分げつ期				最高分げつ期		幼穂形成期		出穂期		登熟期		成熟期		
管理作業	●稲わらの鋤き込み	●堆肥の施用	●深　耕		●耕うん		●塩水選・種子消毒	●播　種	●畦畔作り	●基肥施用	●代かき	●箱施薬剤散布	●田植え（基肥施用）	●除草剤散布		●中耕・草取り	●畦畔管理		●穂肥施用	●畦畔管理		●いもち病防除 ●斑点米カメムシ類	●ヒエ抜き	●畦畔管理	●収穫・乾燥・調製	●稲わらの鋤き込み
水管理													【深　水】	【浅　　水】			【中 干 し】	【間断かんがい】		【湛水管理】		【間断かんがい】		【落　水】		

栽培のポイント

1．土づくり
- 有機物の補給として、稲わらの鋤き込みを行う。
- 堆肥等の施用を積極的に行い、地力維持に努める。

2．作土層の拡大
- 深さ15cmを目標とした耕耘を行い、根域を拡大する。

3．基　肥
- 有機アグレット６７３号を40kg施用する。
（砂質土は２～３割増肥、粘質土は１～２割減肥する）
- 施用時期は、肥料の分解を考慮し田植前10日を目安に施用する。
- 初期生育の確保が不十分な場合には、根付化成(13-13-13)を５kg以内で施用する。

4．穂　肥
- 有機追肥５３０特号20kgを出穂前20日（幼穂長１cm）を目安に施用する。
- 施用遅れは、粗タンパク質含有率を上げ、食味に影響をおよぼすので注意する。

5．育　苗
- 種子消毒は、微生物農薬エコホープＤＪの２００倍２４時間浸漬で行う。（陰干しは、しない！）
- 播種量は、催芽籾で120～150ｇ／箱の薄播きとする。
- ハウス内の温度管理とかん水量に注意し、健苗育成に努める。特に30℃以上の高温に注意する。

6．田植え
- 育苗日数は20～25日とし、２～２．５葉期で移植する。
- １株当り３～５本、栽植密度は㎡当り１８．５株とし密植に注意する。

7．雑草防除
- 秋冬期の耕うんを行い、雑草の発生量の抑制に努める。
- 生育中の畦畔管理は、草刈り機又は、バスタ液剤やラウンドアップマックスロードを散布する.
（バスタ２回迄、ラウンドアップ３回迄）
- 除草剤については、一発処理剤のウィナーフロアブルを移植直後～ノビエ2.5葉但し、移植後30日までに散布する。
- 雑草の発生が多い場合は、手取り又は中耕を行う。
- 藻類の発生が多い場合は、モゲトン粒剤を散布する。

8．病害虫防除
- 畦畔及び農道などの雑草は、病害虫の発生に影響するので、草刈りを行い水田周辺の環境保全に努める。
- 初期害虫防除については、抵抗性イネドロオイムシを考慮し、パダン粒剤４を箱当り50ｇ散布する。
- 本田後期の病害虫である斑点米カメムシ類・いもち病等については、発生量に注意し適期に散布する。

殺菌剤：アミスターエイト
殺虫剤：スタークル液剤10、粒剤、粉剤ＤＬ（選択）

9．水管理
- 田植え初期は深水、活着後は浅水で管理し分げつを促進する。
- 有効茎数確保後（１株当り18本前後）、中干しに入り無効茎数と下位節間の伸長を抑制する。
- 出穂前後は湛水管理、落水は出穂後25日以降とする。

１０．収穫・乾燥・調製
- 収穫は、帯緑色もみ歩合15%を目安に適期に行う。
- 乾燥は、水分14.5～15%とし、過乾燥に注意する。
- 調製は、グレーダーの網目は1.8㎜で選別する。

※ 使用量は、10a当たり。
※ ●有機アグレット673号(6-7-3)　有機態チッソ6%、無機態チッソ0%　●根付細粒化成(13-13-13)　有機態チッソ0%、無機態チッソ13%　●有機追肥530特号　有機態チッソ3．4%、無機態チッソ11．6%
●美穂有機(8-2-10)　有機態チッソ7%、無機態チッソ1%　●黄金ユーキ28号(12-4-12)　有機態チッソ1%、無機態チッソ11%